

井沢良智著「今どきの学生とあきらめない教育 - 次代を引き継ぐ主役なればこそ - 」

創成社新書 2009年2月15日刊を読む

大学教育にも新聞を(Newspaper In Higher Education)

1. 若者の集中力を高めて、自発性を育てるには、教育指導にちゃんとした筋道なり理屈が要る。専門書はあるけれども、それとはちょっと違った安定した指導の原則、方法として何かないか、これを知りたいと探り続けてきた。大学生の学力低下論の本質にも関わることだから、ぜひさらなる工夫をしなければならないが、同じ専攻分野で指導に当たっている私の仲間から聞いて、鮮明に記憶に残っていることがある。
2. ある年彼は、COE にランクされる大学の友人 2 人から頼まれて、彼らが海外に留学した 1 年間ゼミを非常勤で代行した。2 つの大学の学生たちを指導しながら、ゼミの学生に会うと、車中、路上、教室のどこであろうと、彼らの質問や対話が途切れることがなく、退屈しなかったという。それは、学生のほとんど全員が「とことん新聞を読んでいる。隅から隅まで読んで好奇心にみな溢れている」からで、秘訣は新聞にあり、という印象を強くしたそうである。
3. 新聞をむさぼり読むというのは、ある種の自学自修に没頭している証しであろう。私もそれ以前から大学図書館なりで「新聞をしっかりと読みなさい」とは言っていたが、あらためて強調することにした。自分で講読するには負担がきついなら、せめて図書館でというつもりなのだが、図書館の新聞コーナーは閑散としている。しかし、家庭で両親が新聞をしっかりと読んでいる姿を見れば、真似をして習慣になるかもしれない。

[コメント]

自律的に活動する能力の上で必要不可欠な批判的思考(クリティカル・シンキング)を養う上で、最も有効なのが新聞を読んで考えること。大学生こそ、毎日のように新聞を 1 時間以上なめるように読むことを私も強くお勧めしたい。

- 2009年2月27日林明夫記 -